

自分が自分を脅かす

福島 淳 イラスト・ 福島麻衣子

人は、過去の自分によって現在を生活している。しかし時には、過去の経験が自分の足を引っ張ることがある。しかもそれは、本人の気がつかない部分で静かに起ちついているのだ。



過去の自分と現在の自分を比べて見ると
うーん... ちかちかと意味が違ってくる

あなたは、自分のしていることや考え出した結論が、ひいては今までの自分の生き方そのものが、本当に正しいかどうか、今後どうすればよいのか、疑問や不安を抱いたことはないだろうか？おそろしく、この時あなたは、自分なりにその原因について考えを思う。しかし、多くの場合、自分が最初に思っていた原因が本当の原因ではなく、疑問や不安そのものは単なるキッカケに過ぎないのである。問題は、もっと根深いところに存在するのだ。

例えば、乳幼児期に母親から十分な愛を受けられなかった人がいるでしょう。その人も、やがて親から独立する時期がやってくる。しかし、その人の心の中には常に見守ってくれている母親像が定着していない。孤独で不安に満ちたままの状態だ。やがて、ある年齢がきて恋人ができる。多分、いつも一緒にいたいと思ひ、離れることに不安を感じるだろう。そして、この不安感は、時が経つにつれ一人歩きを始めるのだ。勿論、原因は決して恋人と常に一緒にいられないからではない。恋人と離れてしまうこと自体は、不安の生じるキッカケに過ぎないのである。

結局この人の場合、原因は本人の幼児体験にあると言える。つまり、本来自分の中にいるはずの安心感の土台の欠落が、自分を脅かしていることになるのだ。では次に、これとは全く違う父親の例を考えてみよう。仮に、ここに登場する父親は、一人娘を目の中に入れても痛くないほど可愛がり育てている人物とする。そして彼は、社会的には一代で財産を築き

上げ、金銭欲にとらわれているでしょう。父は、娘への父性愛はあるものの、自分が金銭にこだわるあまり、娘に言い寄る男の全てが財産目当てではないかと思ってしまう。もし、男が熱心になるものなら、一層疑心暗鬼となり、策略をもって財産を狙っているとしたか考えられない。こうなると、もう立派な被害妄想である。この父親は、お金を儲けることに生きがいを感じ、その金銭欲が彼を支配していた。だからこそ、誰でも全ての人がそつであると信じ込んでいるのである。その結果、本来は自分が支配しているはずの金銭欲に逆に支配されてしまい、娘にいいよる男の欲望(金銭欲)に悩まされていると錯覚しているだけで、本当は 自分自身の欲望 に脅かされていたということになる。

勿論、この父親に限らず、誰しも自分の汚い、軽蔑視されるだろう欲望の部分は認めようとはしない。目を背けたくなるものだ。もし、彼がそのことに気付き理解する日が来るとすれば、激しい自己嫌悪に陥るに相違ないだろう。なぜなら、自分の醜い部分に気付く、認めることは、これまでの自分自身の生き方を否定することになるからである。

こういつつうに考えていくと、実は我々が直面している問題の多くは、過去から現在に至る自分自身の中で生みだされたものだと言える。つまり我々は、日々現在の生活のなかで過去の自分に出会っているわけだ。周囲の誰かが、自分を不愉快にさせていることもあるだろう。しかし、これまでの自分の考え方にとらわれるあまりあ

▶ 自分の考え方に おびやかされてる例 ◀

① あの人に ○○ な風に思われたいから、△△ しよう..

② あの人 の 行動 の 理由 は、○○ だと 思っているからに 違いない..



るいは、自分は正しいと思うことがそれ以上に自分自身で自らを苦しめ、首を絞めているのである。

逆に、これに対して過去の自分を見つめている人がいるとすれば、それはアーティストたちかもしれない。彼らは、作品を作り上げては世間に発表する。この作品は、本人だけでなく他人の目にもはつきりに見える、彼ら自身の内面だ。つまり、彼らにとつて過去の作品との出会いは、過去の自分自身との出会いでもある。そこで、過去の自分自身と見つめあい、現在の自分を次のステップへと向かわせる努力をするのだ。これは、簡単なようで非常に奇麗な作業である。誰しも、自分自身の未熟で醜い部分を認めるのは怖い。むしろ、そういった部分を無視したり否定したりすること、それらを無意識の中に封じ込めようとす。しかし彼らの場合は、そこを敢えて掘り下げ、あばきだし向かい合うことで、より成熟した未来へ繋げていく作業を行う。そうしなければ、新しい、より完成度の高い作品は生まれてこないのである。新作が前作と同レベルであるとすれば、そこに進歩はない。前作より新作は優れていて当然という周囲の見方もあり、アーティスト自身も常に、より優れた作品を生みだそうとする。こつとして、過去の作品(自分に追われながら未来へ進むのだ。

ふつと、人は体力的・精神的なエネルギーの低下を感じ始めた時、あるいは前むきの、夢を追いかける生活の限界を知った時、ふと自分の過去を振り返る。そしてそ

の時、初めて自分のいる状況を冷静に判断し、今後歩むべき進路について考えるだろつ。結局、今まで生きてきた歴史そのものが、その人自身の 作品 であるのだが、誰しもがその人生という 作品 を、具体的に五感で感じることが簡単にできるわけではない。そのためには、自分自身を冷静に見ることのできる心境が必要であろう。もちろんそれは、ある程度の年齢に達し、思慮分別もついで初めて可能なことである。過去を振り返り、見つめ直すことは、すなわち過去の自分の未熟さや幼さに直面することとなる。しつこいようだが、これは大変怖いことだ。我々は日々の生活において、自分の考え得る限り、善かれと思つてベストな選択をして生きていくはずである。しかし、世の中の人がみなそう思いながら生きているにも関わらず、考え方の相違でもめることは少なくない。人それぞれ生きてきた環境が違うのだから、考え方が違つのは当然だと言つてしまえば終わりだが、たとえ同じ環境に育つた兄弟でも性格が全く一緒というわけではない。そつ考えると、モメ事の多くは、現在の自分の考え方から離れられないゆえの、お互いの問題だと言えないだろうか。とにかく、まずは自分自身を見つめ直し、過去から現在へと続く未熟な部分から逃げ出さないようにするしかないのである。そして、それらを拒否することなく受容し、許すことができたなら、その時こそ自分自身に脅かされることから開放されるであろつ。